

映像作品コレクションの 再検証とその意義

2018年度科研費「『日本映像記録センター』研究」シンポジウム



CHRONIQUE
D'UN ÉTÉ

(Paris 1960)



映像文化が現代社会を大きく支える今日にあって、映像遺産の発掘、収集、保存、利用は映像の発展のみばかりでなく、社会の発展にとってもきわめて重要な意味をもつ。しかしわが国には、このうえなく貴重であるにもかかわらず、正当な評価がされないまま、埋もれてしまっている映像遺産が少なからずある。「日本映像カルチャーセンター」(1972年設立)が所蔵する映像作品コレクションは、その代表格のひとつである。2016年度から2018年度にかけて実施してきた科研費研究「『日本映像記録センター』の研究 ～眠る映画遺産の発掘～」(課題番号 16K02322)は、この一大コレクションに再び光をあて、その意義をあきらかにしようとしたものである。シンポジウムでは、コレクションに含まれる具体的な作品事例をとりあげながら、3年間にわたるコレクションの研究調査の結果を報告する。

日時/会場

2019年1月12日(土) 入場無料
13:00 ~ 17:00

東京工芸大学芸術学部中野キャンパス
2号館 B2 マルチメディア講義室

主催 明星大学デザイン学部奥村研究室/
日本映像学会映画文献資料研究会

スケジュール

13:00~ 基調報告

奥村賢 (明星大学デザイン学部 日本映像学会会員)

14:00~

参考上映 ※各作品とも日本語字幕はなし。詳細な日本語訳資料を配付

『キノブラウダ 20号』
(1924年 ジガ・ヴェルトフ 16分)

『夜行郵便列車』
(1935年 バジル・ライト&ハリー・ワット 24分)

<休憩>

『ある夏の日』
(1961年 ジャン・ルーシュ 90分)

16:00~

パネルディスカッション

パネリスト

とちぎあきら (IMAGICA Lab.)

伊津野知多 (日本映画大学 日本映像学会会員)

村尾静二 (国立民族学博物館)

畠山宗明 (聖学院大学 日本映像学会会員)

奥村賢 (明星大学デザイン学部 日本映像学会会員)

進行 西村安弘 (東京工芸大学 日本映像学会会員)

お問い合わせ

明星大学デザイン学部奥村研究室
masaru.okumura@design.meisei-u.ac.jp